

せっかくウオーク「浅井三姉妹のふるさとを巡る」～小谷城跡編～ 参加者募集♪

- 開催日 5月13日(月) 小雨決行
- 定員 100人(先着順)
- 集合場所・時間 8時45分・JR河毛駅
- コース JR河毛駅―北国脇往還―小谷城跡―清水谷―JR河毛駅
- 参加料 1,000円
- ※当日の昼食(お弁当)ガイド料込
- 申込方法 左記事務局へ電話で
- 申込締切 4月19日(金)
- 申し込み ツーデーマーチ実行委員会(市民体育館内) ☎64-5151



▲小谷城跡から伊吹山を眺める

日本五大山城の一つに数えられ、浅井家の居城であった小谷城跡へ登りませんか。

みんなでconcerto 長浜音楽祭2013 出演団体募集



- 開催日 11月16日(土)・17日(日)
- 開催場所 長浜文化芸術会館(大島町)
- 募集条件 長浜市・米原市で活動している、合唱または器楽の団体
- ※申込多数の場合は抽選
- 参加料 300円/人(保険料含む)
- 申込方法 直接またはFAXで事務局まで
- 申込締切 4月30日(火)
- 申し込み 長浜音楽祭実行委員会事務局(長浜文化芸術会館内) ☎63-7400 FAX 63-7401

今年度の秋に開催する長浜音楽祭に出演希望の湖北地域の音楽団体を募集します。

■開催日 11月16日(土)・17日(日)

■開催場所 長浜文化芸術会館(大島町)

■募集条件 長浜市・米原市で活動している、合唱または器楽の団体

※申込多数の場合は抽選

■参加料 300円/人(保険料含む)

■申込方法 直接またはFAXで事務局まで

■申込締切 4月30日(火)

■申し込み 長浜音楽祭実行委員会事務局(長浜文化芸術会館内) ☎63-7400 FAX 63-7401

市長コラム③④

至誠通天

藤井 勇治

※至誠通天 誠を尽くせば天が 味方してくれること

先日の3月議会において、合併4年目の総仕上げとなる新年度の予算等について議決いただきました。

国では新政権の発足後、強い国家を取り戻すために、大型補正をはじめ、金融緩和・財政出動・成長戦略という3本の柱からなる経済再生に着手しました。

我々、地方もこうした国の施策に呼応しながら、長浜市にとってよりふさわしい手法を用いて、効果的に地域経済の活性化と社会成長を図らねばなりません。

新年度予算は、緊急の課題である防災力の強化、教育環境の改善といった社会資本の整備等に取り組み、「長浜版地域経済対策」を打ち出し、億円を確保しました。

また、「北部地域の振興」と「中心市街地の活性化」を重要課題と位置付け、強力で進められます。

北部地域の自然が育つ豊かな上質な農林水産物や大河の歴史、地域に脈々と引き継がれる観音文化といった全国に誇れる地域資源に磨きをかけてまいります。



▲3月議会での提案説明

行政 information

消費生活相談 特定商取引法が一部改正 訪問購入のルールが変わりました

問 環境保全課消費生活相談窓口 ☎65-6567

「不用品なら何でも買い取る」と電話があり家に来てもらった。業者は用意しておいたものはざっと見ただけで、「貴金属はないか」と聞いてきた。「ない」と答えても、しつこく聞いてくるので、仕方なく金のネックレスなど4点を見せたところ「売ってほしい」と言われた。断つても業者がなかなか帰ってくれず、怖くなつて売ってしまった。

冷静になると、大事なものを売ってしまったことの後悔が強くなり、翌日「返してほしい」と連絡したら、「もう手元がないから、解約できない」と言われた。本当に返品してもらえないのか?

○訪問した業者に貴金属等を買収取られる「訪問購入」に関する相談が多く寄せられています。今まではクーリング・オフ(無条件解約できる)制度はなく、後日返品を求めても取り戻せないケースがほとんどでしたが、平成25年2月21日以降は、訪問購入によつて取引される「すべての物品」が、契約日を含めて8日間はクーリング・オフが出来ることになりました。

ただし、家庭用電気機器・家具・書籍(CD、DVD)など一部対象外の物品もあります。

〈法律の主な改正点〉

- (禁止) 約束なく突然に訪問し買取をすること
- (禁止) 依頼したもの以外の物品の買い取りを強要すること
- (禁止) 一度消費者が断つたにもかかわらず再度勧誘すること
- (義務) 業者連絡先、購入価格、引渡の拒否やクーリング・オフ制度について書かれた書面(契約書)を売主に交付すること
- (義務) 買取業者がクーリング・オフ期間内に物品を第三者に売る場合は、売主と第三者にクーリング・オフ期間内の商品であることを連絡すること

書面交付の日を含めて8日間は、物品の買い取り業者に渡さなくても良くなりました。



こんにちは カリナと申します

ブブリス・カリナ

職業実習のために姉妹都市であるドイツ・アウグスブルク市から来られたカリナさん。今回は、国際交流員コラムに代えて、カリナさんからのメッセージをお届けします。

平成21年に青年使節団の一員としてはじめて長浜市に来て、ホーム・ステイをしました。来る前に英語で書いたメールでホスト・ファミリーと連絡ができて、5人家族で娘さんたちが3人いると知りましたが、皆さんに会えることを楽しみにしていましたが、「どうやってコミュニケーションをとればいいかな?」との不安もありました。

長浜市役所に着いたとき、ホスト・ファミリーはもう待っていてくれて、そこで、ホスト・マザーと娘さんの一人にはじめて会いました。

行く前にイブニング・スクールで日本語を勉強したので、ホスト・ファミリーと日本語で話してみました。深い話はできませんでしたが、英語が話せない両親とも簡単なコミュニケーションができて、うれしかったです。

例えば、毎晩お母さんの美味しい料理を食べて、「おいしい」や「ごちそうさま」が言えました。また、娘さんの一人は大学でドイツ語を勉強していたので、少しだけドイツ語でも話しました。「あした、

しゅっぱつはなんじ?」と聞くと、「8 Uhr! (8時)」と返事をしてくれたのを覚えています。

みんなと過ごした時間は短かったですが、本当に楽しくて、出発したとき「絶対にもう一度長浜市で過ごしたい」と思いました。

ドイツに帰ってから、大学で一生懸命日本語の勉強を続けて、去年の3月から埼玉県の駿河台大学で交換留学をするようになりました。

今回、市役所や長浜市民国際交流協会で職業実習をするために3月4日からおよそ2週間、長浜市に滞在しました。その間、あの時と同じホスト・ファミリーの家に泊めてもらいました。本当にありがたかったです。

今は、伝えたいことを日本語で伝えられるようになったので、お母さんの料理をちゃんと褒められたり、お父さんといろいろ面白い会話ができました。もちろん娘さんたちと楽しく遊ぶこともできました。

皆さん、お世話になりました! また大好きな長浜に戻ってきます。